

# あいち防災フェスタ (あいち防災協働社会推進大会) 防災&ボランティアフォーラム が開催されました!

南海トラフ地震などの大規模災害に備え、地域の防災力を高めるため、県民や自主防災組織、企業、ボランティア等が連携し、一体となって防災対策に取り組み、防災協働社会の形成を推進することが重要となっています。こうした中、防災意識の向上や災害ボランティア活動への理解の促進を目的とするあいち防災フェスタ(あいち防災協働社会推進大会)・防災&ボランティアフォーラムが「あいち地震防災の日」の平成26年11月9日(日)に愛・地球博記念公園(モリコロパーク)で開催されました。



防災貢献団体表彰

オープニングセレモニーでは、防災活動に積極的に取り組む、地域防災力の向上に貢献した10団体に對して、防災貢献団体表彰が贈られました。

セレモニー終了後、会場となった地球市民交流センターでは、瀬戸市消防団応援サポートの佐藤梓さんによるライブステージが行われたほか、各ブースにおいて炊飯体験や豚汁の炊出し、災害時に役立つ知識の紹介や津波・大規模風水害対策車を始めとする防災関係車両の展示などが実施されました。子ども用防火衣を着用して消防車と記念撮影等、子どもからお年寄りまで、楽しみながら防災に関心をもっていたたくさんの方々が参加していました。



ご当地キャラもやって来ました



佐藤梓さんライブ



防災関係車両

- あいち防災リーダー会(こうなん)(江南市)**  
犬山、小牧、大口、扶桑、江南の5市町で開催した「5市町防災カレッジ」において、講師として講話の実施。市内の自主防災会防災訓練では、防災資機材を持ち込み、地域住民に防災資機材の使い方を見せながら周知しています。
- 飯村校区防災会連絡協議会(豊橋市)**  
連絡協議会設立後から現在まで毎年防災訓練を実施しており、小学校児童が授業の一環で行った防災に関する取組を防災訓練内で発表する場を設けています。地域が一体となった校区防災訓練を実施し、災害に強いまちづくりを進めています。
- 香久山区自主防災会(日進市)**  
「地域ぐるみの防災・減災」を目標とし、「連携」をキーワードとして、毎年防災イベントや訓練を実施しており、参加できなかった住民に対してもホームページや香久山自主防災通信の発行・配布を通じて防災意識啓発を図っています。このような取組が評価され、今年度、防災功労団体として防災担当大臣表彰を受賞しました。
- 白山町内会連合会(春日井市)**  
倒壊家屋からの救出救護訓練や放水訓練など、災害時に役立つ防災訓練を実施した結果、白山町内会(全9地区)のうち、3地区が自主防災組織を新たに発足し、町内会全てが自主防災組織を設置しました。
- 玉貫西二区自主防災会(武豊町)**  
区単位の防災訓練、常会単位の安否確認・助け合いを重視した防災訓練を実施。また、武豊町役場と共同で、耐震診断受診のPRを区内全ての昭和56年以前の家屋を対象に実施しています。

## 平成26年度 防災貢献団体表彰受賞団体の取組を紹介します! ※五十音順

- つつじが丘防災会(知多市)**  
災害発生時の安否確認と被害状況の早期把握を図るため、安否確認用データベースを整備しています。また、発災前後の行動について防災会の方針を示す「つつじが丘災害時行動マニュアル」を作成し、訓練を通して逐次修正しています。
- 土器田町内会地区防災組織(安城市)**  
資機材取扱訓練では、資機材の取扱方法を外国人住民がポルトガル語で通訳して実施しています。訓練参加の呼びかけのための回覧をポルトガル、スペイン語表記にしており、外国人の訓練参加率は9割を超えています。
- 豊橋市赤十字奉仕団(豊橋市)**  
豊橋市主催の総合防災訓練に毎年参加しており、炊き出し訓練を実施しています。各校区防災訓練への参加、災害時における高齢者に対する支援の方法を伝える健康生活支援講習の実施をしています。
- 豊山小学校校区自主防災会(豊山町)**  
地域の避難場所や街頭消火器、AED、井戸等の場所を詳しく記した地域防災マップの作成や防災を課題とした地域力向上を目指す定例会を月一回開催し、話し合いや情報交換の場を設けるなど、地域防災力の強化を行っています。
- 花立自主防災会(扶桑町)**  
毎年、地区で防災訓練を実施し、内容は救出訓練、初期消火訓練など。平成23年度からは、自主防災会内の災害時要援護者を地図にしてまとめた花立防災地図の作成をしています。また、避難経路の点検調査を行っています。

## あいち防災協働社会推進協議会より



公益社団法人愛知建築士会 廣瀬高保 会長

一今回は、あいち防災協働社会推進協議会委員の公益社団法人愛知建築士会廣瀬高保会長にお話を伺います。まず、愛知建築士会とはどのような団体ですか。

(公社)愛知建築士会は、建築士の資格者を正会員とする団体で、昭和26年に設立し、現在22支部で構成され、正会員、準会員、賛助会員合わせて4,280名余り(平成26年10月1日現在)の会員が登録しています。

平成23年4月に公益社団法人となり、主な公益目的事業は愛知県内における一級、二級、木造建築士の試験の実施、免許証明書の発行、建築士の登録及び建築士名簿の閲覧業務です。建築士の資格を取るための講習会の開催及び3年ごとに義務化された一級・二級・木造建築士の定期講習会も行っています。文化的な事業としては文化財建造物の保存、活用に向けた助言や未登録文化財を発見し登録に協力できる人材を養成するあいちヘリテージマネージャー養成講座を毎年開催しています。今年度は4期生の講習が始まりましたが、人気のため受講者を抽選で決定している状況です。古建築の伝統的構法の設計・耐震補強の考え方等を学ぶ木塾(ぼくじゅく)という講座もあり適宜講習会を開催しています。また地域貢献活動を実施している団体に対して募集を行い選出された事業に助成を行っています。毎年吹

上ホールにて中部経済新聞社と共催で建築総合展を開催していますが、今年のテーマは「建築がつなぐ明日への希望」と題して行いました。耐震・免震・制震コーナー等を充実させ、3日間で23,440名の方にご来場いただきました。

一愛知建築士会の防災に対する取組を教えてください。

民間木造住宅耐震診断事業を毎年行っており、平成25年度は春日井市始め36市町村より受託し2647件の診断業務を実施しました。非木造建築物についても、耐震対策緊急促進事業の運営団体のメンバーとして耐震診断業務等を実施する体制を整備しています。大規模地震発生時における応急対策活動に関する支援協力の協定を現在27市町と締結しています。応急危険度判定士に登録した会員は支部ごとに連絡網で組織され判定

模擬訓練、連絡訓練を随時実施しており災害発生時には素早く参集できる体制を取っています。また各支部においても個別に防災・減災関連の研修会等を実施しており、地元自治体との連携強化に努めています。

一防災協働社会を推進していくには、どんな取組が大切だと思われませんか。

地震、津波等自然災害に対する事前の防災・減災策、被災した後の市街地の復旧・復興策については自治体との連携が大切であり、すでに一部の自治体と締結している防災協定がより効果的に運用されるように自治体と建築士会の活動について定める、支援活動マニュアル等を整備していく必要があります。

一ありがとうございました。災害被害を軽減するため、地域の人々が互いに協力することが大切ですね。